

「当てずっぽう」は「いい加減に判断すること」だから、判断を誤ったら大変という場面で使うのはむしろ禁物だ。他方、間違えてもやり直しがきく時には、試してみても良いかもしれない。

私は気ままな散歩や時間に余裕のある外出などで、目的地へ行くのに「当てずっぽう歩き」を時々やってみる。初めての土地では難しいが、住み慣れた都内などで自らの地理感覚と勘を頼りに、これだろうと思う道を辿って行く。途中で目的地への案内板などの確認が現れればニンマリ、逆にぐうも様子が違つと感じたら地図表示を探し、現在地と歩いた道を確認、方向が違つていたら修正する。

スマホに案内させれば目をつぶっていても目的地に行ける時代に、なんと非効率なことを、と笑われそう。しかし当てずっぽう歩きには、ある種のゲーム性があつて結構楽しめる。これに慣れると、目指す方向を探す勘が身に着くのでは、とさえ思う。スマホの電池切れだけで立往生、では困る。

と偉そうに書いたが、先日、渋谷駅からオリンピックセンターへ、初めての道を当てずっぽうに歩いて迷いかけた。東急本店に寄つた後、そこから始まる神山通りを北西へ歩く。この道はバスの通る井の頭通りのすぐ西側に平行しているから、たやすく行けると油断した。富ヶ谷商店街を抜けると程なく代々木八幡駅に出た。オリセンのある参宮橋は次の駅なので、そのまま線路沿いに歩いたところ、何と逆方向の代々木上原に来てしまった。

後で地図を見ると、オリセンへのバス通りは代々木八幡付近で北西から北へ緩く曲り、逆に神山通りは徐々に西へと向きを変え離れて行く。その分れ目にある代々木八幡駅で小田急線は直角にカーブし、前後が双方の通りに沿うという、当てずっぽう泣かせ(?)の位置関係だった。緩く曲る道は要注意、気づかないうちに西へ歩いていた。引き返して東に丘を越えたら通い慣れたバス通りに出たが、「自分の庭」の近くで迷つたことで少なからず自信がぐらついた。